

2022年度 米子北斗中学校・高等学校 学校自己評価表【分掌・教科・学年】

学校教育目標	社会の各分野において指導的役割を果たし得る優れた人材の育成（次世代リーダーの育成）
--------	---

～育てたい生徒像～

1. 確かな学力(知識・技能・思考力・判断力・表現力)を身につけ、様々な課題を主体的に解決できる生徒
2. 多様性・協働性とともに、国際的視野を身につけ、グローバル化する社会で活躍できる生徒
3. 諸行事や部活動を通して健やかな心身を養い、ボランティア活動や地域の諸活動に積極的に参加する生徒

校 訓
自学自律
本年度の学校目標
自ら考え、判断し、行動する

【評価基準】 達成目標に対する達成状況を数値化(割合)し、100%～80%⇒A 80%～60%⇒B 60%～40%⇒C 40%～20%⇒D 20%～0%⇒E とする

【分掌】

	2022年度当初(4月)			中間評価(9月)			最終評価(3月)		
	2021年度末の現状	達成目標	具体方策	経過状況	評価	改善方策	経過状況	評価	次年度への課題
総務部	PTA活動は、新型コロナウイルスの影響を考え、工夫した活動を行う必要がある。	■PTA活動を充実させる。	■円滑なPTA活動をしてもらえるよう、準備・打ち合わせを早めに取り組む。 ■会議のオンライン開催を積極的に導入する。	■		■ ■	■		
教務部	中学観点別評価の評価規準の見直しと、高校にも観点別評価が導入されるため、評価規準の研究とその作成に取り組んだ。	■生徒の学力向上のため、教師の指導向上・改善に向け手助けをする。	■P(計画) D(実施) C(評価) A(改善)サイクルを意識した授業の実践をめざし、資料の提供や他校の研究会の出席を促す。 ■生徒の学力向上につながる授業研究の場として、研究授業、授業研究会を設定する。	■		■ ■	■		
進路指導部	進路意識、職業観の成が十分ではない。	■的確でタイムリーな進路情報の提供と、キャリア教育の充実 に努め、進路意識高揚を促す。	■大学・予備校・模試会社等の説明会、分析会等に積極的に参加し、情報収集に努める。適切な機会に適切な情報を提供する。 ■講演会、説明会、懇話会等を企画し、総合学習の進路探求に役立つ情報提供に努める。	■		■ ■	■		
生活指導部	生徒会と連携してスマホ使用に関するルールづくりを議論した。	■適切にICT機器を活用するためにデジタルシティズンシップ教育を推進する。(倫理観および規範意識の育成)	■ICT委員会と連携して、タブレットの使用に関する適切なルールを定める。 ■デジタルシティズンシップ教育に関する研修会等に参加する。	■		■ ■	■		
人権教育部	研修会等、人権に関わる情報を、保護者・教職員へ提供した。	■教職員の人権感覚をより磨くため、校内研修を充実させる。	■本校の現状を見据え、教職員研修のテーマを設定する。 ■関係機関と情報共有しながら講師を招聘する。	■		■ ■	■		

	2022年度当初(4月)			中間評価(9月)			最終評価(3月)		
	2021年度末の現状	達成目標	具体方策	経過状況	評価	改善方策	経過状況	評価	次年度への課題
保健 管理部	健康観察が習慣化した。	■感染症対策を継続して行う。	■BLENDによる健康観察を徹底する。 ■感染症に関する情報収集を行い、手指消毒、換気などの基本的な対策を励行する。	■		■ ■	■		
生徒会 指導部	生徒会、執行委員を中心に生徒が主体となって活動する場面が増えた。	■引き続き、北斗祭等の学校行事において、生徒が主体的に考え活動出来る場面を増やし主体性を育む。	■生徒会、代議員会、執行委員会等で各部門の意見を集約して、企画を立案させる。 ■各行事の役割分担を明確にし、生徒各自に行事を牽引させ責任感を持たせる。	■		■ ■	■		
事務部	迅速かつ丁寧な対応に努め、来訪者の立場を考えた対応の徹底が必要である。	■迅速かつ丁寧な行動に努め気持ちの良い対応を心がける。	■用件等を整理し慌てず落ち着いた対応をする。 ■電話3コール対応。電話の保留時間の短縮のため適切な場所に繋ぐ。	■		■ ■	■		
特別 支援 委員会	生徒の実態により合った短期目標の設定が必要である。	■個々の生徒が、目標達成に向けて充実感を得ながら各活動に取り組めるようにする。	■指導計画の短期目標設定を実態に見合ったものにする。 ■各生徒に適切な資料等を提供する。	■		■ ■	■		

【教科】

国語	各学年の教材をSDGsの視点で捉え直し、教材研究を深めることができた。	■6年間の系統性の研究を深める。	■各科目の目標や内容を再確認する。 ■新課程の高校教科書を研究する。	■		■ ■	■		
社会 地歴 公民	県選挙管理委員会による出前授業(模擬投票含む)は、諸般の事情により今年度は中止となってしまった。	■主権者教育を実施し、生徒一人一人の政治に対する関心と主権者としての意識を高める。	■公共の授業を中心に、政治制度に対する理解を深める。 ■外部機関と連携し、主権者教育を実施する。10～11月を目処に模擬投票ができるよう、計画を進める。	■		■ ■	■		
数学	中学生については、授業中の演習によって学習意欲が高められた。	■数学への知識だけでなく、主体的に学習に取り組む態度も身に付けさせる。	■授業で多くの問題に取り組ませることによって処理力・計算力を育成し、その定着度合いを宿題や小テストなどで点検する。 ■生徒が積極的に取り組み、自分の考えを発表できるような授業を実践する。	■		■ ■	■		

	2022年度当初(4月)			中間評価(9月)			最終評価(3月)		
	2021年度末の現状	達成目標	具体方策	経過状況	評価	改善方策	経過状況	評価	次年度への課題
理科	SDGsに関連する分野の学習・活動により生徒の意識が高まってきた。	■SDGsに関わる課題研究に取り組ませる。	■生物多様性、自然環境、エネルギー問題等のSDGsに関連の深い分野の学習について、ICTを積極的に活用する。 ■学年に応じた課題研究に取り組ませる。	■		■ ■	■		
英語	生徒の英語4技能を最大限に伸ばせるよう、授業内外の活動の見直しが必要である。	■「聞くこと」、「話すこと」、「読むこと」、「書くこと」の4技能を総合的に高める。	■スピーキングやライティングのパフォーマンステストを行ない、その評価・振り返りも有効に活用し、生徒の英語での表現力向上を図る。 ■英検の積極的受検の促進及び対策、GTECの対策を行ない、英語4技能の向上を図る。	■		■ ■	■		
保健 体育	男女共習授業を導入し、工夫して安全に留意した体育の授業を進めることができています。また、体育活動の中で、自分たちでゲームの審判や進行、得点係などを割り当て、主体的に取り組むことができるようになった。	■新学習指導要領の3つの観点に基づいた観点別評価のルーブリックに対し、生徒の自己評価をすべての項目で「達成」「十分達成」を80%以上にする	■パフォーマンス評価のルーブリックに関する概要を年度当初に生徒に周知する。 ■ルーブリックに沿った評価ができるよう、単元ごとに説明を行う。	■		■ ■	■		
技術 家庭科	何事にも積極的に取り組むことができ、特に実習では主体的に活動ができるようになってきている。	■学習活動や実習で得られた知識や体験をこれからの生活に生かしていけるようにする。	■プレゼン発表や実習を多く実施し、理由や原因を考えさせる機会を設ける。 ■	■		■ ■	■		
音楽	箏・三味線の実技演習を行い、基本的な奏法を身につけることができたが、日本の伝統的な音楽への興味・関心が乏しい生徒が多い。	■日本の伝統的な音楽への理解を深め、和楽器の演奏で音楽表現ができるようになる。	■能や歌舞伎などを鑑賞・実演する。 ■和楽器の合奏を行う。	■		■ ■	■		
美術	再構築できた学習内容を考察しながら授業実践をし、より深めることができた。	■再構築できた学習内容を考察しながら授業実践を継続して行い、更なる学習内容の充実を図る。	■再考察した学習内容で授業展開する。 ■授業実践による学習内容の充実を図る。	■		■ ■	■		

【学年】

	2022年度当初(4月)			中間評価(9月)			最終評価(3月)		
	2021年度末の現状	達成目標	具体方策	経過状況	評価	改善方策	経過状況	評価	次年度への課題
高校3年	学習の「量と質」どちらも重要であることを理解させた。	■全員第一志望合格という目標を達成させるため、学習の量と質の取り組みを充実させる。	■志望校合格のために計画を立てさせ、入試日までに得意教科を伸ばし、苦手教科を克服させる。(面談や試験後の振り返りを重視する) ■フォーサイトや学習時間調査も活用し、学習量や質の向上に努める。	■		■ ■	■		
高校2年	教科学習や探究学習に対して自発的かつ協動的に取り組んでいる。	■探究学習と研修旅行を通して、課題研究論文を完成させる。その中で、具体的な根拠を提示して主張することの重要性を認識させる。	■学習過程の全体を見通したグループ分けを実施し、目的意識と、当事者意識を持たせる働きかけを行う。 ■研究課程や研究手法をより深く検討させるため、課題探究メソッドとインスパイアハイなどの学習教材を十分に活用する。	■		■ ■	■		
高校1年	学校行事等では主体的に取り組むことができた。	■キャリア教育を充実させる。	■インスパイアハイ(動画教材)等を利用して、様々な職業、生き方を学び、多様性について学び、やりたいことを探究する。 ■探究したことについて学年末論文にまとめる。	■		■ ■	■		
中学3年	探究学習では企業との連携ができ、生徒にとって良い経験となった。また、探究学習を通して5つの力(傾聴力、思考力、発信力、想像力、行動力)を育むことができた。	■探究学習として卒業論文を作成し、探究する力、文章力の向上、根拠を示し、論理的な思考ができる生徒を育てる。また、スケジュールリングができる生徒を育てる。	■課題研究メソッドを活用し、問いの立て方、情報の収集・整理・分析・活用能力を高める。それらを元に、自ら設定した問いに対して、根拠を示し、論理的に考えをまとめられるよう指導する。 ■研究計画を立て、スケジュールを管理する。	■		■ ■	■		
中学2年	探究学習で得られた主体性をさらに高める必要がある。	■探究学習等で地域の現状を考察し、課題解決に向けた提案をすることを通して、主体的に行動しようとする意欲・態度を向上させる。	■フィールドワークや企業訪問などを行い、自己評価や教員からの評価などを踏まえて到達度を確認する。 ■情報を整理・分析し、プレゼンテーションの資料作成や発表に取り組むなどの活動を積極的に行う。	■		■ ■	■		
中学1年		■探究学習などを通して、「よく学び、よく考える」姿勢を養成する。	■テーマについて自ら課題を見つけ、深く考え、他者と協働しながら解決策を考えられる活動を行なう。 ■SDGsの視点で考えられるようになるための素地を身につけさせられるよう、SDGsに照らし合わせながら各活動を行なう。	■		■ ■	■		